

日本写真学会

第5回天体写真技術研究会

天体写真研究会では、

- 1) デジカメなどの画像機器の内部処理について、その研究や開発の経験がある講演者から、基本的な原理を紹介する
- 2) 一般写真に対して有効な処理と、天体写真分野で行われている処理をデモなども交えながら比較して、両者の類似点と相違点を明確にする。
- 3) より高品位の天体写真を得るためのポイントを議論する。
等のスタイルで、より高品位の天体写真を目指すための基本的な課題(階調再現、色再現、ノイズ対策、HDR 処理など)について、順番に取り上げる形で進めております。

前回は、『天体写真で問題になる色再現と、デジカメの色処理との関係』というテーマでしたが、今回は『天体写真の被写体の広い輝度範囲と、HDR 処理との関係』というテーマで、下記のように開催いたします。関心ある方にはぜひご参加いただきたく、お待ちしております。

なお、**研究会は写真学会会員限定で、定員 40名**といたしましたので、参加希望の方はお早めにお申し込み下さい。また、これを機会に、新規入会される方も歓迎します。

【開催日時】2017 年 6 月 14 日(水) 13:30~17:00 頃(13:00 受付開始)

【開催会場】東京工芸大学 中野キャンパス 芸術情報館 3F 大会議室

〒164-8678 東京都中野区本町 2-9-5

【交通】

■電車:東京メトロ丸ノ内線・都営地下鉄大江戸線「中野坂上」駅下車。

1 番出口より山手通りを渋谷方向に進み、成願寺の先を右折。徒歩約7分

■アクセス・地図 : http://www.t-kougei.ac.jp/static/file/map_1_na_131111.pdf

【プログラム】

講演:『天体写真の被写体の広い輝度範囲と、HDR 処理との関係』13:30~16:00 予定

星や星雲など、自ら発光している被写体が多い天体写真では、撮像デバイスが記録できる輝度範囲や表示デバイスが再現できる輝度範囲を越してしまうことが多いため、天体の美しい姿を表現するためや、天体の構造の細部を浮かび上がらせるために、撮影対象に合わせて撮影時や撮影後の画像処理で特別な工夫(HDR 処理)が行われています。そのような天体写真の HDR 処理と一般的な HDR 処理の関係について、デジカメの開発経験者から紹介します。

また、なぜそのような処理が有効なのかについて、**視覚工学の専門家**からの解説も予定しています。

講師: 水口 淳(天体写真技術研究会運営委員)

塩田 和生(天体写真技術研究会主査/運営委員長)

矢口 博久(天体写真技術研究会運営委員)

討論:『天体写真で求められる望ましい階調再現実現のポイント』16:00~17:00 予定

上記講演の話をつまえて、天体写真で求められる望ましい階調再現を実現するためのポイントについて、参加者全員で質疑や討論を行い、課題の共有を図りたいと思っています。

参加者各位からの多数のご意見を頂き、活発な議論にしたいと思います。

【参加資格と参加費】写真学会個人会員に限らせていただきます……参加費は無料です。

■参加資格: 個人会員(一般、学生)に限る。開催当日までに入会手続きを前提とした参加申込みも可能です。詳しくは、学会 Web サイトにて。

⇒入会案内 <http://www.spstj.org/member/annai.html>

【定員】40 名(参加される方は必ず事前に申込をお願いします。)

【申込締切】2017 年 6 月 7 日(水)

日本写真学会のホームページ <http://www.spstj.org/> よりお申込み下さい。

※定員を超えた場合はお断りする可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

天体写真技術研究会:

主査: 塩田和生(天体写真家/元富士フイルム)

委員: 小林裕幸(日本写真学会会長/元千葉大学)、蒔田剛(キヤノン)、山野泰照(ニコン)、矢口博久(千葉大学)

上坂浩光((有)ライブ)、田島俊之(国立天文台)、水口 淳(元ソニー)

事務局: 山岸治(日本写真学会)